

写 真

40×30 ミリ

履 歴 書

(その1)

履 歴 書				
ふりがな 氏 名	ディビット・クリストファー・モートン David Christopher Moreton	男・女	生年月日 (年齢)	1969年(昭和44年) 1月7日(42歳)
現住所	〒770-8054 徳島市山城西4-15 レジデンス・シーマ 302 電話 088 (671) 5736 携帯 090 - 2898 - 4647 E-MAIL david.c.moreton@gmail.com			
本 籍 地 又 は 国 籍	カナダ			
現職	徳島文理大学客員講師			
最終学歴	ブリティシュ・コロンビア大学院東洋学部日本宗教史専攻修士課程修了			
学位	アジア学部修士(ブリティシュ・コロンビア大学)			
博士学位論文名	2010年11月(提出済み) 博士論文は現在執筆中「西洋人の目からみた四国と四国遍路の歴史：失われた日本への旅」(提出先：徳島文理大学文学部)			
学 歴				
年 月	事 項			
1990年1月	ウォータールー大学(英語: University of Waterloo) 人文科学入学 (1年生)			
1992年9月	ブリティシュ・コロンビア大学東洋学部日本文化専攻編入 (2年生)			
1993年5月	立命館大学国際関係学部(交換留学生、3年生)1年コース			
1994年2月	同上修了			
1995年4月	ブリティシュ・コロンビア大学東洋学部日本文化専攻卒業			
1999年9月	ブリティシュ・コロンビア大学院東洋学部日本宗教史専攻入学			
2001年3月	同上修了			
職 歴				
年 月	事 項			
1995年4月	京都両洋高等学校(英語講師、国際部長補佐) 担当科目: 英語			
1999年9月	ブリティシュ・コロンビア大学(担当科目: 「日本語」助手(TA))			
2001年4月	徳島文理大学 客員講師 現在に至る			
学会及び社会における活動等				
現在所属している学会				
関西社会学会会員 日本民俗学会会員 宗教と社会学会会員 The Asiatic Society of Japan 会員 (日本アジア研究会) Association for Asian Studies 会員 (アジア学協会) POW Research Network 会員 (戦争捕虜研究会) NPO法人「遍路とおもてなしのネットワーク」会員				

年 月	事 項
2011年3月	(予定) 招待講演: Society of Writers, Editors and Translators 「祖父の戦争日記の翻訳プロジェクト」神戸
2011年3月	(予定) 招待講演: 「国際理解」徳島シルバー大学
2011年12月	(予定) 招待講演: 「外国人と四国遍路の歴史」関西外国大学
2010年10月	基調講演: 「欧州の人にとって遍路に魅力とは?」(高松) (主催: 「四国夢中人」実行委員会・四国運輸局)
2010年8月	招待講演: 「泰緬鉄道からの生還—祖父の戦争体験」(京都: 立命館大学国際平和ミュージアム)
2010年5月	基調講演: 「The Spirit of Selfless Service along the Shikoku Pilgrimage」Toastmasters 全国大会 (徳島)
2010年2月	招待講演: 「外国人生活から見た徳島・日本」小松市国際交流協会
2010年1月	基調講演: 「遍路アドベンチャーIN 四国」(高松) (主催: 「四国夢中人」実行委員会・四国運輸局)
2009年11月	招待講演: 「泰緬鉄道からの生還」徳島県立文書館歴史講座
2009年7月	招待講演: 「外国人遍路とその歴史」第27回郷土文化講座 (徳島)
2009年5月	招待講演: 「日本での生活や四国遍路の研究」小松島国際交流協会
2009年5月	招待講演: 「モートンさんが語る四国遍路」吉野川国際交流協会
2008年12月	招待講演: 「自分らしく心豊かに生きる」(男女共生ネット Tokushima) の講演
2008年5月	カナダのランガラ短期大学生に四国遍路についての講座やお寺案内
2006年5月	カナダのランガラ短期大学生に四国遍路についての講座やお寺案内
2005年12月	香港大学生に四国遍路についての講座やお寺の案内
2005年8月	徳島を訪問した JICA (独立行政法人国際協力機構) の大学生四国遍路についての講座やお寺案内
2005年6月	招待講演: 「外国人の目から見た四国遍路 (HIROBA 国際交流協会) 徳島市藍住
2004年5月	基調講演: 「The Shikoku Pilgrimage and Giving」Area 33 Toastmaster's 地域大会
2004年3月	招待講演: 徳島市の青少年センターで四国遍路についての講座
2003年12月	香港大学生に四国遍路についての講座やお寺の案内
2002年5月	カナダのランガラ短期大学生に四国遍路についての講座やお寺案内

賞 罰

年 月	事 項
1993年11月	「京都の外国人による日本弁論大会」最優秀賞・受賞、主催: (財) 京都市国際交流協会、京都市 (国際化推進室)、 (財) 京都国際文化協会、京都西レオクラブ、京都西ライオンズクラブ スピーチ題名: 「The Value of a Human Being」(人間の価値)
1994年10月	ブリティッシュ・コロンビア州の日本語弁論大会 (最優勝者) スピーチ題名: 「ディビット、遊ぼう」
2005年11月	「第28回京都国際文化協会エッセーコンテスト・私の見た日本」(英語の部) 京都国際文化協会賞・受賞 主催: (財) 京都国際文化協会 受賞対論文 "The Value of A Human Being" (人間の価値)

職 務 の 状 況

勤 務 先	職 名	学 部、学 科 等 (所属部局)の名称	授 業 担 当 科 目 名	毎週担当授業時間数				備 考
				専任	兼担	兼任	計	
徳島文理大学	客員講師	大学一般	英語 (「オーラル・コミュニケーション」「リーディング」「ライティング」)	5			5	
徳島文理短期大学	客員講師	言語コミュニケーション学科	英米文化論 (後期) 国際社会と日本 (前期)	1			1	
徳島文理小学校	非常勤講師	小学校	5年と6年生の英語	4			4	4X45分

上記のとおり相違ありません。

年 月 日

氏 名

印

(その2)

教育研究業績書

		氏名
教育上の能力に関する事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	2001年-現在	留学生との文化交流の実践 カナダ、香港、韓国の短期留学生を日本人クラスに入れて交流をさせ、文化交流を促進した。
	2001年-現在	文化遺産研修を取り入れた授業実践 『四国と巡礼』の講義で学外の寺院や施設などの文化遺産を訪問する研修を取り入れ、日本の伝統的な接待の文化を理解させた。
	2001年-現在	情報機器を利用した授業実践 インターネットや e-learning を授業に取り入れ学生の理解を促進した。
2 作成した教科書、教材	2003年3月	『English for Your Future 2 - Vocabulary and Reading』. 2003年3月 著者：徳島文理大学教員（日本人教員6名） 発行所：マクミラン・ランゲージハウス 英語表現のチェック：Greg Naito、 <u>David Moreton</u> （はしがき）「本書の作成にあたって、徳島文理大学講師のGreg Naito氏、 David Moreton 氏、そして、Jill Buckham氏には『自然な英語表現にする』『本当に必要な英語単語・熟語の取捨選択』という面から、原稿をチェックしていただきました。」
	2006年	『Word Wise - Building your Vocabulary Through Rhythm Practice』 著者：Masanobu Horiguchi, Richard Mickelson. Nanundo. Co. 14章の執筆協力者： <u>David Moreton</u> （「本書の構成」文）「なお、この教科書作成にあたっては14章の執筆で徳島文理大学のカナダ人講師 David Moreton 氏に助力を仰ぎ、また、四国学院大学院生の荒木達郎くんにはいろいろ面白いアイデアを提供してもらいました。ここに厚く御礼申し上げます。」
3 教育上の能力に関する大学の評価		国際部長による評価： 「国際部勤務と研究に活躍し、各規則を把握しており、英語版の諸規則の整備に当たっている。授業の事前準備も万全、研究においても紀要その他の雑誌に投稿、放送局などの地域社会からの講演、出演依頼を受けている。明るい性格で学生の評価も高く、人気もある。国際交流でも活躍する。」 学生の授業評価： 「国際社会と日本」：「新しいことをたくさん知ることができた。授業も皆が参加しやすいように工夫して進めてくれたり、自分が実際に海外に行った際、注意することや、知っているといい事なども知ることができ、とても良かった。」 「英米文化論」：「アメリカとイギリスと日本の関係性、また国の違い（文化）を取り上げ、色々な分野についての考えを広めることができた。授業は毎回毎回全く違うことをするので、切り換えもできて、何をするのか楽しみながら授業を受けられました。」 「四国と巡礼」：「お遍路はただ単に歩いてお寺を廻るものではなく、その一つ一つの過程の中にも経験や地域の人々との触れ合いが遍路を大きくしていくのだと考えました。これは勉強しなければ気が付かなかったです。」 「英語」：「英語圏以外の国のことも学べて、とても有意義だった。」
4 その他		

職務上の実績に関する事項	年月日	概要
1 資格、免許	1998年2月 1999年8月	ケンブリッジ大学 CELTA (Certificate in English Language Teaching to Adult) course (成人英語教授資格コース) 修了 (110時間) バンクーバー・コミュニティー・カレッジ TESL (Teaching English as a Second Language) 夏集中講座 (英語教員養成課程) 修了 (325時間)
2 特許等		
3 その他 論文の引用と謝辞	2002年1月	『Shikoku Henro - A Study of Japanese and Western Pilgrims on the Shikoku Eighty-Eight Sacred Places Pilgrimages』Unpublished MA thesis. Fiona MacGregor (<i>University of Sheffield</i>) see pg. 12 Also “ <u>David Moreton</u> checked my translations and generously shared his own research with me.”
論文の引用と謝辞	2004年4月	『Hiking the Shikoku Pilgrimage - A Walk Through Each Other』Unpublished BA thesis. Zachary Ugolnik (<i>Syracuse University</i> , 2003) “Without the friendship and guidance of <u>David C Moreton</u> , I would probably still be wandering the island.”
論文の引用と謝辞	2005年	『Making Pilgrimages- meaning and practice in Shikoku`』 Ian Reader , University of Hawaii Press. 2005. p. 78 endnote - See pg 299 “See Hashizume 1926 for a collection of Tatsueji’s miracle tales. I am grateful to <u>David Moreton</u> for this reference.”
論文の引用と謝辞	2009年3月	『SHIKOKU PILGRIMAGE - A study of western pilgrims from a Japanese point of view.』Unpublished BA thesis. Rie Kihara . (愛媛大学) “I would like to thank <u>David C. Moreton</u> , a teacher at Tokushima Bunri University and researcher on the Shikoku pilgrimage, who also helped me in many areas related to the development of this paper. He answered my questions, provided copies of numerous articles, gave me books and was a great help overall. Without his kind support, I could have finished this thesis.”
謝辞	2009年2月	『Tokushima: The Sacred Temples』(阿波の遍路道：世界に発信する四国巡礼) (DVD) BA Graduation Project (徳島大学総合科学部) 指導教員の坂田浩から： 「今回の卒業研究指導では、モートン先生をはじめ、多くの先生から暖かいご指導とご助言を頂きました。特に、モートン先生からは外国人にとって四国遍路とは何かという点で貴重なご助言を頂き、学生も非常に参考になったと考えております。ご協力、誠にありがとうございました。」
謝辞	2009年1月	『The Shikoku Pilgrimage』Unpublished BA Thesis. Mai Akizuki, Tomoko Tanaka, Tomomi Morita (松山東雲大学) “Thirdly, we would like to express our appreciation to <u>Mr. David Moreton</u> for the valuable editorial suggestions he gave us.”
論文の引用と謝辞	2009年5月	『The Development of Shikoku Henro - The Formulation and Dissemination of a Pilgrimage in Pre-Modern Japan: A Case Study of Shikoku』Unpublished Master’s thesis. Eiji Okawa . (<i>The University of British Columbia</i>) “ <u>David C. Moreton</u> , my true senpai, has given me warm support in the past year. Thank you David, for taking the time to give me valuable advice and comments, on henro and on other things.”

著書、学術論文等の名称	単著、共著の区別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(著書)</p> <p>1 『Shikoku Japan 88Route』</p> <p>2 “A Journey of the Soul – the Shikoku Pilgrimage and its 88 Temples”</p> <p>3『泰緬鉄道からの生還—ある英国兵が命をかけて綴った日記：一九四二年～一九四五年』</p> <p>4 “Surviving the War –The secret diaries of an English POW along the Thailand-Burma Railway, 1942-1945”</p> <p>5 “Wallfahrt zu Zweien: Die 88 Heligen Statten von Shikoku” (同行二人: 四国 88 ヲ所霊場)</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>編著</p>	<p>2007年10月 2009年8月 (改訂版)</p> <p>2008年8月</p> <p>2009年8月</p> <p>2010年1月</p> <p>2010年12月</p>	<p>武揚堂出版</p> <p>徳島教育出版</p> <p>雄山閣(東京)</p> <p>徳島教育出版</p> <p>Europaeischer Hochschulverlag 出版(ドイツ)</p>	<p>監修・翻訳</p> <p>翻訳・編集</p> <p>監修・翻訳・解説</p> <p>監修・編集・解説</p> <p>編集・解説</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. “An Examination of Travel Literature on the Shikoku Pilgrimage Route and Warnings Contained Within.”</p> <p>2. 「フレデリック・スタールによる四国遍路の記録」(英文)</p> <p>3. 「現代の外国人遍路の目から見た四国遍路」</p> <p>4. 「フレデリック・スタール(お札博士)と四国遍路」</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>2005年</p> <p>2005年</p> <p>2006年</p> <p>2007年</p>	<p>徳島文理大学 研究紀要</p> <p>“The Transactions of the Asiatic Society of Japan”, The Asiatic Society of Japan,</p> <p>愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」公開シンポジウムプロシーディングス』</p> <p>愛媛大学『現代の巡礼—四国遍路と世界の巡礼 公開シンポジウムプロシーディングス』</p>	<p>69号。pp1-11.</p> <p>Vol. 19. pp. 106-111</p> <p>pp.58-64.</p> <p>pp.31-40.</p>

<p>5. “About Kakurinji—the 20th temple along the Shikoku pilgrimage: Its history and miracles tales based on two early 20thCentury documents”</p> <p>6. “About Tatsueji—the 19th temple along the Shikoku pilgrimage: Its history and miracles tales based on two early 20thCentury documents”</p> <p>7. 「昭和初期の外国人遍路：アルフレッド・ポーナー」</p> <p>(翻訳) 1. 繁田空山『四国霊験記』(1886 著)</p>	単著	2008 年 10 月	徳島文理大学 研究紀要	76 号 pp.31-47.
	単著	2008 年 10 月	徳島文理大学 研究紀要	76 号 pp.49-64
	単著	2010 年 3 月	愛媛大学『現代の巡礼—四国遍路と世界の巡礼 公開シンポジウム プロシーディングス』	pp.79-87
	著者	2011 年 3 月	徳島文理大学 研究紀要	(掲載決定済)
<p>(その他) 1 「外国人の目から見た四国遍路」</p> <p>2 『世界遺産シンポジウム・報告書』四国いやしの文化—四国霊場八十八個所と遍路道—は世界遺産になれるのか。</p> <p>3 「お接待が引き継がれる巡礼の道四国八十八カ所」</p> <p>4. 「巡礼—理想的の世界」</p> <p>5. 「人生は旅である」</p>	単著	2004 年	大阪国立民族博物館『月刊みんぱく(特集：巡礼)』	12 月号 p. 11
	単著	2005 年	『世界遺産シンポジウム・報告書』(財団法人とくしま地域政策研究所)	
	単著	2007 年	大阪国立民族博物館特別展解説書『聖地・巡礼—自分探しの旅へ』	p62-63.
	単著	2008 年	愛媛大学『四国遍礼—アジアの巡礼 公開シンポジウム プロシーディングス』(愛媛大学)	研究集会参加記 p. 77-78
	単著	2009 年 4 月	男女共生ネット TOKUSHIMA (代表：澤田順子)『新世紀男女共生社会へのメッセージ：	第 8 号 p11-13

6. 「人生は旅である」～つづき	単著	2010年3月	男女共生ネット TOKUSHIMA (代表: 澤田順子) 『新世紀男女共生社会へのメッセージ』	第9号 p43-45
7. 「2009年度「四国遍路と世界の巡礼」合宿研究会の感想」	単著	2010年3月	愛媛大学『四国遍路と世界の巡礼—アジアの巡礼—公開シンポジウム プロシーディングス』 (愛媛大学)	研究集会参加記) pp35
8. 「礼儀とおもてなし—現代社会に不可欠なこと」	単著	2010年10月	男女共生ネット TOKUSHIMA (代表: 澤田順子) 『新世紀男女共生社会へのメッセージ』	第10号 (掲載決定済)
(国内学会発表等) 1. 外国人と四国遍路の歴史	単独	2007年9月30日	巡礼研究会 57回例会 (大阪)	
2. 外国人にとっての四国遍路—四国八十八カ所巡りが世界遺産に指定される意義について—	単独	2008年5月24-25日	関西社会学会・第59回大会 (松山大学)	
解説事項 (Book Reviews) 1. Japan at Play 2. Japan and the Dutch, 1600-1853 3. Japan's Past, Japan's Future: One Historian's Odyssey 4. Land and Lordship in Early Modern Japan 5. Kaempfer's Japan - Tokugawa Culture Observed 6. Popular Buddhism in Japan - Shin Buddhist Religion and Culture	単著 単著 単著 単著 単著 単著	Fall 2003 Spring2002 Fall 2001 Fall 2000 Fall 2000 Summer 2000	“Pacific Affairs Journal” University of British Columbia Press.	Vol. 26. No. 1 p128-129 Vol. 75. No. 1 p124-126 Vol. 74. No. 4 p441-442 Vol. 73. No. 3 p454-455 Vol. 73. No. 3 p456-457 Vol. 73. No. 2 p297-298

教育実績

	期間	教育を行った機関	主な担当科目
学部	2001年4月—現在に至る	徳島文理大学 大学薬学部・人間生活学部・健康福祉学部・総合政策学部・音楽学部・短期大学部保育科・生活科学科・商科・言語コミュニケーション学科・音楽科	「英語」・「オーラル・コミュニケーション」・「リーディング」・「ライティング」・「国際社会と日本」・「巡礼と四国」・「英米文化論」

大学院			
外国			
その他			